

紙面の工夫 児童理解

鯖江・片上小 実践通し編集学ぶ

NIE(教育に新聞を)実践指定校の鯖江市片上小は31日、4年生を対象に新聞作りを理解を深める授業を開いた。児童21人が記事の書き方からレ



記事の書き方などを話し合う児童=31日、鯖江市片上小



アウトまで、紙面編集全般について実践を通して学んだ。福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーター

らが講師を務めた。徳島コーディネーターは「新聞は、事実や思いを伝えるためにいろんな工夫が

ある」と紹介。その一つが記事の内容をコンパクトに伝える見出しで、児童は実際に新聞記事を使って付ける練習をした。

「片上地区」をテーマにした紙面づくりを想定し、中身を話し合う編集会議にも挑戦。児童は5班に分かれ、取材対象や記事の書き方、レイアウトを話し合った。児童は「地区内のイベントを記事に」「見出しはもっと大きい方がいい」などと積極的に意見を出し合っていた。

児童は今後、国語の授業で、体育大会や校外学習などについて壁新聞を作る。日谷涼椰さん(10)は「トップ記事はみんなが読みやすい場所に配置することを学び、参考になった。生かしていきたい」と話していた。

(前田 卓)